



キャベツ (アブラナ科アブラナ属)

キャベツは冷涼な気候を好み、生育適温は20度前後ですが、初期は高温や低温に強い野菜です。一般地では夏まき秋冬取りが最も作りやすい時期です。

【品種】 サラダ、煮物などに万能の品種が主流で、病気に強い品種を選びましょう。秋取りに適した早生品種の「初秋」(タキイ種苗)、「新藍」(サカタのタネ)は葉が柔らかい良食味品種です。冬取りには中晩生種で甘味のある「彩音」(タキイ種苗)、「冬藍」(サカタのタネ)もお薦めです。

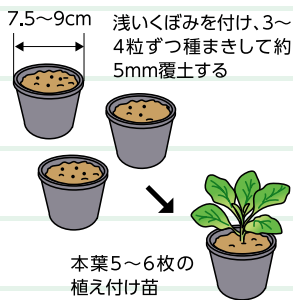
【栽培期間】 一般地では、早生種は7月上旬〜下旬に種まきし種まき後90日程度、中晩生種は7月下旬〜8月中旬に種まきし120〜150日で収穫できます。

【苗作り】 少量の苗を作るには7.5〜9cmのポリポットを使うのが便利です。1ポット当たり3〜4粒まき、本葉2〜3枚で1株になるよう間引きます。苗作りの期間は30日程度で、寒冷しゃやなどで害虫の飛来を遮断します(図1)。

【畑の準備】 畑

1平方m当たり苦土石灰100g程度をまき、よく耕します。畝幅70〜80cm、深さ20cmの溝

図1 ポット育苗



を掘り、この溝1m当たり堆肥1kgと化成肥料(NPK各成分で10%)100gを施し、土とよく混ぜて畝を立てます(図2)。

【植え付け】 本葉5〜6枚の頃、株間40cm程度に植え付けます。このとき、植え穴を掘り、穴に十分水やりして、活着をスムーズにさせます(図3)。

図2 種まき

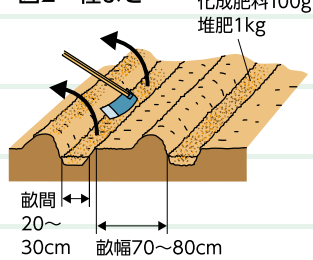
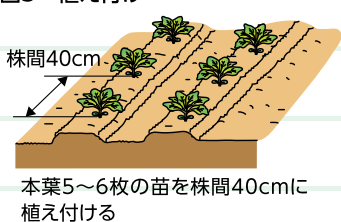


図3 植え付け



【病害虫の防除】 ヨトウムシ、コナガ、アブラムシが多いので、オルトラン水和剤などで駆除しますが、生育初期はネット栽培で予防しましょう。葉先にくさび状の病斑を示す黒腐病にはズボルドーなどで予防します。

【収穫】 球が肥大し、やや堅く締まってくれば収穫期です。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



栽培計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき栽培			○	●	●	●	●					●
夏まき栽培							○	●	●			●
秋まき栽培									○	●		

○ 種まき ● 植えつけ ● 収穫

JAグリーン津店が教える！
キャベツ栽培のポイント



JAグリーン津店
グリーンアドバイザー認定
成松 次郎

● 作物特性・苗作り

キャベツは用途などによって春系キャベツと寒玉キャベツに分けられます。春系キャベツは葉が軟らかくサラダなどに向いており、寒玉キャベツは葉が厚く硬く結球するので主に焼きそばなどの過熱調理に適します。

キャベツにおいて健苗育成の一番のポイントは水分管理です。軟弱徒長させないためにも、灌水はできるだけ午前中に行い、夕方には培土表面が乾く程度にしておきます。

● 畑の準備・植え付け

キャベツは過湿には弱い作物ですので、排水の良い畑を選んで作りましょう。また他のアブラナ科野菜との連作は避けましょう。温暖な気候を好みますから、特に秋まき栽培では日当たりの良い場所を選びます。水はけが良くなるように畝(うね)は高めにすると良いでしょう。

苗を定植させる畑に肥料をまき、よく耕しておきます。苗の本葉が4枚くらいになったら畑に定植しますが、この際、深く植えすぎないように注意しましょう。

● 栽培方法・病害虫の防除

キャベツといえば、何枚もの葉が重なって結球した形が印象的ですが、栽培方法や環境によっては、うまく葉が巻かなかつたり、とても小さいキャベツになってしまうことがあります。

品種の特徴や、栽培をする気象・土壌の条件を踏まえて、結球期に葉が巻く適切な気温になるよう、種まきや定植の時期を決めることが美しいキャベツを作るポイントです。

キャベツはヨトウムシ、アオムシ、コナガなどの害虫被害を受けやすい野菜です。これらの害虫はキャベツの葉が結球しない原因を引き起こし、生育中の被害は、収穫や品質を低下させてしまいますので注意しましょう。